

新住園島

令和5年度【第11号】
2024年2月1日発行
八頭町役場商工観光室
(0858-72-0144)

やずうさぎ
マガジ外
発信中



Instagram
yazu_life
更新中

—八頭町地域おこし協力隊活動の現場から—

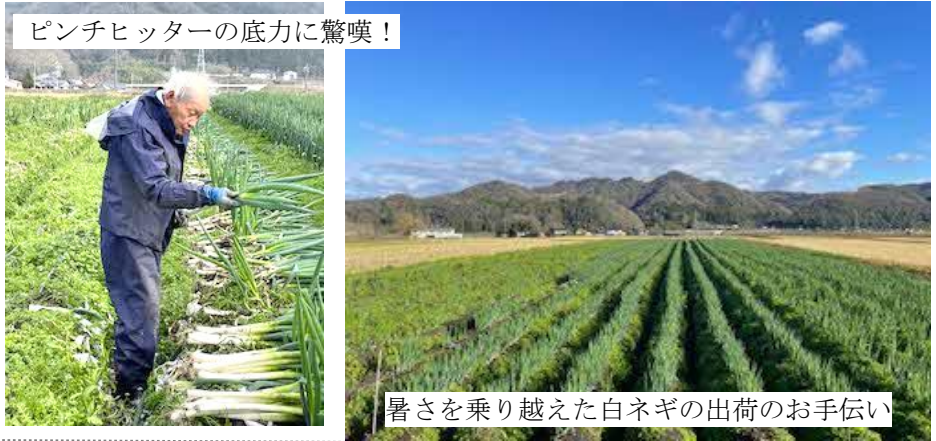
ネギ掘りのレジエント現る！

八頭町に来て未だに感嘆するのは、ピンチヒッターとして現れる大先輩の底なしの根性とパワーです。

年末のある日、白ネギ千二百本の出荷のために朝9時から始めるはずが、到着した時には既に掘り終わっており、そのパワーには驚きました。そんなエネルギーは一体どこから湧いてくるのでしょうか？昨年の大豆脱穀でも、忍耐力とスピードには本当に驚きました。

昔は米俵2俵も1人で長い距離を運んでいたことを見て育ったと伺い、「大したことはない」と言う先輩方の当たり前の基準は、きつと私とは全く異なるものなのだと感じます。

私も幼少期に自転車で4つの重い物袋を運んでいた記憶があります。百姓魂の底力は想像を超えるもので、身近で体感できたのは、今後の人生において貴重な財産になると思えます。今年も感謝の気持ちで満ちた日々を過ごし、いのちを喜ばす瞬間を増やしていきたいと思っています。真柳加奈子



暑さを乗り越えた白ネギの出荷のお手伝い

全国高等学校選抜ホッケー大会

年末、東京で全国高校ホッケー選抜大会が開かれました。私は、八頭高ホッケー部のトレーナーとして今大会に帯同させて頂きました。

これまで準決勝までしか勝ち

進むことができず、悔しい思いをしてきたことから、選手たちは鳥取や八頭高の歴史を変えたいという熱い思いで臨みました。

初戦、次戦と勝ち進めましたが、楽な試合はありません。キヤブテンを中心に守りが堅く、よく走るチームなのでケガが多く、テーピングや痛み止めを飲むなど、とても全員が万全な状態ではありません。怪我をしても『絶対に出たいから治して下さい』と、勝ちたいと思う気持ちがとても強い良いチームでした。準決勝では1点をリードされたまま残りあと30秒という土壇場で同点においつき勝利しました。最後まで自分たちを信じ抜いた瞬間でした。

決勝の舞台は初ということもあり、ロッカールームでは誰もが静かになるほど緊張していました。試合は最後まで粘り強く戦いましたが、惜しくも準優勝という結果でした。鳥取県勢男子初の決勝進出は快挙ではありますが、選手たちの目は全国制覇に向かっています。私もサポートメンバーの1人

としてしっかりとケアしていきたいと思えます。岡田悠作



集中力を高める選手たち

準決勝と決勝はYouTubeでご覧頂けます



準決勝



決勝

八東川のサケ

八東川でサケを見た事がある方はいらっしゃいますか？

サケとは、あの鮭です。北海道や東北地方のイメージが強いサケですが、実は本来日本に広く分布する魚。太平洋側では茨城県以北、日本海側では何と佐賀県まで。そんな鮭ですが、近年は数を減らし九州や山口県ではほぼ見られなくなりました。それでもまだ島根県江ノ川以東にはそれなりに遡上してきます。もちろん千代川にも登ってきており、円通寺の大口堰までは毎年秋になるとサケがやって来ています。

八頭町、八東川でも昭和45年頃まではサケを見たことがある、捕ったことがあるという話を幾つか聞くことが出来ました。とはいえ、近年は遡上できなくなって久しく、もう居ないものだと思っていました。

ダメ元でも、と昨年11月頃から八東川に水中カメラを仕掛け、毎日8時間ほど録画。場所や角度を変えながら撮影を続け、毎晩早送りとはいえ数

時間かけて動画を確認。魚が横切る一瞬、片時も目が離せません。そんなこんなしていたら、本当にサケが映ってしまったのです！しかも2匹。驚きです。環境大学や栽培漁業センターの友人に伝えてみても「まだ登ってる個体が居たのか！」と驚いた様子でした。

既に絶滅してしまったと思われる八東川のサケ。多くの人に忘れられながらも、実は力強く堰を越え、生き残っていたのです。調べてみたら意外と居た、なんて話は存外多いのかもしれません。今年も、水辺について調べ、考えていきたいと思っています。よろしくお願いたします。

小宮春平



鱗を取らなくてよいよう品種改良された食用種「イトコイ」(逸出個体)も見られた



水中映像に映ったサケ

○担当課より

- ・2/27(火)10時から郡家駅コミュニティ施設ぷらっとびあ・やずにて令和3年度加入の協力隊員4名の活動報告会を行います。3年間の活動を振り返りますので、皆様ぜひお越しください。(田淵)

○協力隊からのお知らせ

- ・インスタグラム【yazu_life】で八頭の魅力を発信しています！(表紙QRコード)。

八頭町役場ホームページからカラーでご覧いただけます。